

# 予算委員会 7 / 6

7月6日の千葉県議会予算委員会で日本共産党みわ由美県議(右写真)は、コロナ禍のもと、東京五輪の中止を主張し、命と暮らし、人権を守りぬく県政への転換を求めました。



## オリ・パラ 学校観戦

7月8日  
首都圏は  
無観客に

子どもたちをコロナ感染の危険にさらすオリ・パラの学校観戦は中止すべき

マスク・手指消毒・体温測定などでリスクは抑えられる→命よりオリパラが大事

県の学校観戦チケット(約10万5千枚)は7月5日現在、半数以上がキャンセルとなり、31市町村(約6割)や、半数以上の県立学校が中止しました。県はコロナ感染防止のため、公道での聖火リレー、ライブサイト等を中止。だったら学校観戦も県の責任で全面的にやめるべきです。

## ワクチン PCR検査

ワクチン集団接種会場(蘇我・松戸)を東葛南部医療圏に増設し  
県PCR検査センター設置で、無症状者の把握・保護を

発熱者やクラスター発生時など幅広く検査、高齢者施設従事者に  
抗原検査キット約16万を配布→相変わらず有症者中心の検査

国の責任でワクチンを確保し、県も集団接種会場をふやし、テンポを速めることが重要です。同時に感染が収まらない千葉市、東葛北部、同南部、印旛、市原、君津地域などで「いつでも、誰でも、何度でも無料で検査」し、拡大を抑えるべきです。全県の一日の最大検査能力は2万2千ですが、せいぜい10分の1程度しか実施していません。3月から行ってきた無症状の高齢者施設従事者の検査は、8月以降は取りやめます。

## 医療機関 減収補てん

医療従事者への一時金未払いなどを繰り返してはならない  
コロナの影響で減収している全ての医療機関へ補てんを

感染防止対策へ補助し、中小企業再建支援金を支給した、診療報酬などを国に要望している→深刻な実態に背を向け、補てんせず

千葉県保険医協会のアンケートでは「経営の見通しが立たない。閉院も検討」が2割近く。県立病院も例外ではなく、県は「コロナの影響」もあると、一般会計から37億円を長期貸付しました。事実上の減収補てんであり、県が全ての医療機関への支援を拒む道理はありません。「医療崩壊」を食い止めるべきです。

## 生理の貧困

貧困問題であり、ジェンダー平等・人権問題。県立高校での無償提供で氏名や理由を記入・入力させるやり方の改善を

福祉的支援につなげると強弁→プライバシーへの配慮を回避

県立学校のトイレなどに無償の生理用品をおくモデル事業を実施します。問題は、任意とはいえ「福祉の支援につなげる」として、氏名や理由などを記入・入力させることです。このやり方では利用をためらう人がでてしまい、そもそも人権・プライバシーの観点で欠如しています。

